

ブレインマシンの日本の第一人者・武田崇元さんに教わる

「カシーナ」がいざなう 未体験の意識世界



ただですうげん◎伝説的オカルト誌『復刊地球ロマン』（総映社 1976-1977）の編集長として、政治的ラディカリズムを触媒とする秘教的伝統の更新を企てる。その後、『ムー』（学研プラス）の創刊に顧問として参画し、1981年に神道霊学書籍の発掘を目的とする八幡書店を創立。'80年代のオカルトブームに決定的な影響を与える一方で、ブレインマシンの開発や電脳シャーマニズムの旗手として、大きなインパクトを与えた。著書に『新約 出口王仁三郎の霊界からの警告』（学研パブリッシング）『出口王仁三郎の大降臨』（光文社）『奇跡のロックバランシング』（今日の話題社・翻訳）他多数。
<http://www.hachiman.com>

1990年代初頭に、脳波をコントロールするブレインマシンが、世界中で旋風を巻き起こしました。リラクゼーションや変性意識、深い意識状態へと導くという、このマシンは、時代とともに進化を重ね、近年、遂に、至高のインナービジョンの世界へと導く「カシーナ」がアメリカで開発されました。ブレインマシンの日本の第一人者である武田崇元さんに、このマシンの歴史とカシーナについて伺いました。

お話◎武田崇元さん 取材協力◎八幡書店 取材・文・構成◎編集部

脳波に働きかけるブレインマシンとの出会い

変性意識を人為的に作り出すブレインマシンに魅せられて

変性意識の状態になるために自然の中や寺院などで、何十年も厳しい修行を続けている人がいます。そのような深い瞑想状態や変性意識に入ると、日常意識では遮断されている、内的宇宙の光景が非常にリアルに見えるという体験をすることがあります。私は、このような状態を多くの人に体験してもらいたいと、30年以上、光と音の刺激による「意識誘導の研究」に情熱を注いできました。

光の明滅とパルス音で脳波を誘導する装置を「ブレインマシン」、あるいは「マインドマシン」と言います。

最初に商品化されたのは、アメリカのデニス・ゴルゲスが開発した「シンクロエナジヤイザー」で、日本では1989年に、私が輸入販売を始めました。

この機械は、専用ゴーグルをかければ、目を閉じているのに何かが見えるという新鮮な衝撃でした。ユーミン（松任谷由実）のアルバム「ジャケ写に「シンクロエナジヤイザー」の専用ゴーグルが使われてたりして話題になりました。

電話機のような形で、値段は10万円以上しましたが、よく売れました。

リラクゼーションと
電脳トリップできる装置を開発

でも、この装置は故障も多かったため、

ベルギー製の装置に切り替えることにしました。

その頃には、欧米で同じような装置が続々と登場し、最盛期には約30種類もあつたんです。

ただし、どれもプログラムは似たりよつたりで、単調でした。人間の脳は、単調だとすぐに慣れてしまい、効果は半減します。だけど、私はこの種の装置には、もっと豊かな可能性があると考えました。光の明滅による「脳波誘導」という基本原理は同じでも、明滅パターンやタイミミングを複雑にすれば、もっとドラマティックな体験が可能になると考えたんです。

そこで実験を積み重ね、1993年に「メガブレイン」という装置を自分で開発しました。

世界で初めて、左右の点滅を分離制御し、点滅のタイミミングを微分的に制御させました。すると、強力に変性意識状態へ誘導し、魅惑的なインナービジョンを見られるようになったんです。

脳波の種類	周波数帯域
δ波 (デルタ波)	1-3Hz
θ波 (シータ波)	4-7Hz
α波 (アルファ波)	8-13Hz
β波 (ベータ波)	14-Hz

ブレインマシンの進化の流れ

1968
年



ジャック・シュワルツが開発した、最初期のゴーグル型ブレインマシン「ISIS」。

1988
年



デニス・ゴルゲスの「シンクロエナジザー」は、初めて商品化されたブレインマシンで、現在に続くプロトタイプ。1989年、日本に上陸。

国産ブレインマシン「メガブレイン」が誕生。



2015
年

カシーナを日本で販売。



2013
年

カシーナが誕生。

1992
年



日本において、第一次バーチャルリアリティブームが起きる。



メガブレインを超える 世界最高峰のマシンが登場

当時は、ちょうど第一次VR（バーチャルリアリティ）ブームでした。でも、当時のVR技術は、掛け声だけで目玉がなかつたんです。そこで、「脳内VR」というキャッチフレーズで、「メガブレイン」を売り出しました。瞼を閉じれば「もうひとつの世界」を体験できるというので、各地のVR博や、都内にあつた有名なクラブの大型イベントでも活躍しました。ただ、原価的にも限界があり、バブルも崩壊し、数年で生産を打ち切ることになったんです。その後も海外ではいろいろなマシンが登場しましたが、残念ながらメガブレインを超えるものはなく、やがてブームは下火になっていきました。ところが、数年前にアメリカで「カシーナ」が開発されたんです。それは、メガブレインの開発思想を究極まで進化させたものでした。

また、ほかの機種は、装置本体にプログラムを内蔵していたのに対し、外部メモリー方式を採用し、追加でプログラムを入れられるようにしました。ユーザーが、自由にプログラムを作成できる機能も盛り込みました。後にも先にも、日本で独自のブレインマシンを開発したのは、私と電機メーカーのパイオニアだけです。パイオニアのほうは、150万円くらいの医療向け装置でした。「メガブレイン」は15万円で、コンセプトは、「マインドアミューズメント・リラクゼーション・電脳トリップ」でした。

ノストラダムスも実践した 光を利用した変性意識状態

「25年前の技術では不可能だったプロジェクトが、これなら実現できる」と確信した私は、日本での独占販売権を取得しました。さらに、日本版には独自プログラムを組み込むことになりました。昔のユーザーの方からは、「ついにメガブレインが壊れてしまった。死ぬまでにもう一度、あの体験がしたいから復活して欲しい」という要望が寄せられていたからです。それで、日本版にはメガブレインの代表的なメニューをさらに強化した一連のプログラム「H A C H I M A N」を入れたんです。

光の明滅（フリッカリング）やゆらぎは、人間の感覚と脳に不思議な効果をもたらします。目を閉じた状態で、太陽や蛍光灯の方向を向いて、目の前で手を上下あるいは左右に振ってみてください。しばらく続けると、手で遮られる光の影響で、瞼の裏に青と赤の光の縞模様や渦巻きが見えてくるようになります。太陽で行うと見えやすいですが、絶対に目を開けないように注意してください。このような光のフリッカー効果については、魔術結社にも伝えられていたようです。ノストラダムスは、カトリヌ・

武田さんが解説 ブレインマシンの最高峰「カシーナ」の4つのモード

カシーナのプログラムは、すべてマイクロSDに記録されています。カシーナの本体は、それを読み込むプラットフォームとしての機能を持っています。

「スペクトラ・ストロボ」モードのメニュー例

Accelerate (6プログラム)

エネルギーの充填／集中力の強化／仕事やスポーツのパフォーマンス向上に

Meditate (8プログラム)

瞑想／リラクゼーションに

Mind Art (14プログラム)

実験的な視覚化の試み／意識の変容に

Night Voyage (6プログラム)

就寝前のリラクゼーション／明晰夢の誘導に

Rejuvenate (7プログラム)

疲労時の回復／生命エネルギーの向上／癒しに

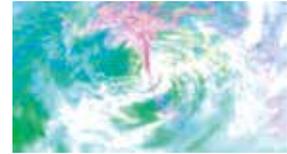
Trance (5プログラム)

入眠幻覚／霊的修行に

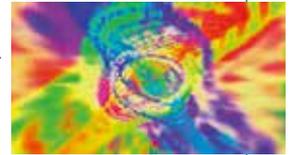
音楽と一体化したマインドアートが繰り上げられる

●スペクトラ・ストロボ

1番代表的なモードで、今までにはなかった特長です。RGB 3原色の光を、自由自在に強めたり弱めたりでき、左右6色の光を制御して統括できます。このような装置は、世界でカシーナだけです。



カシーナで得られるビジョンは人によって異なります。この写真は、あくまで見えるビジョンのイメージです。



LEDの明滅パターンを変えて、無限の組み合わせを楽しめる

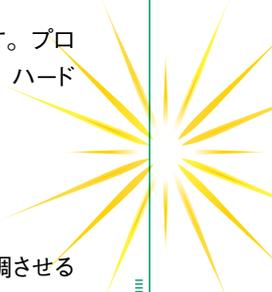
●オーディオ・ストロボ ●カシーナベーシック

3色の光体を、左右それぞれ1個のもののみで制御します。プログラムで個別に緑や青の光を制御することはできませんが、ハード側で16パターンに色調を変化させることができます。

自分の好きな音楽とミックスできる

●カラーオルガン

このモードを選ぶと、ご自分の好きな音楽に光の明滅を同調させることができます。音楽を「見る」という新鮮な体験ができます。



ド・メデイシスから、それを伝授されました。彼はしばしば塔の最上階に登り、太陽の方向を向いて瞑目し、手を上下左右に動かすことで、幻視的なビジョンを得ていたんです。

フリッカー効果には、2つの作用があります。ひとつは、光の残像によって網膜上に、神聖幾何学的な模様が見えること。

もうひとつは、脳波が明滅の頻度と同調して、 α 波や θ 波に誘導されることです。

この2つの相乗効果で、インナービジョンを誘発し、意識の深みへと誘導されていきます。

ノストラダムスのように予言的なナビ

光と音を使ったカシーナによる意識探究

カシーナで得られる未知なる意識探究の世界

カシーナは、非常に拡張性の高いツールで、使い方は様々です。去年から輸入販売をスタートし、今では1500台を超えました。

引き寄せや様々な瞑想法がブームで、色々なメソッドが世の中にあふれています。でも、なかなか根気も続かないし、うまくいかない方が多いようです。

カシーナはそういう方のサポートにも有効なんです。例えば、成功哲学の本には「成功した自分をイメージする」と書かれています。目を閉じた状態で理想の状態をリアルにイメージするのは、簡単なことではありません。瞑想に熟達した人、生まれつき能力のある人はともかく、普通の人

ジョンを見たり、シャーマンの神がかり状態の場合、脳波は θ 波になっています。宇宙や高次の存在と繋がるためには、脳波を θ 波に誘導し、変性意識状態に入ることが必要なんです。

そういう状態になるには、よほど瞑想に熟達しているか、特殊能力者でない限り、光と音を利用するのが効果的です。

脳波は光や音に同調するからです。カシーナは、光と音の複雑な制御で複合的に脳に働きかけます。

劇的な内的ビジョンを喚起する最先端装置なので、意識探究に大きな力を発揮してくれます。

とって、自由にイメージをビジュアライズすること自体が難しいんです。

そのような方に、カシーナはお勧めです。光と音の絶妙な効果で、イメージングしやすい状態へと強力に誘導してくれます。

ふだん、人間は言語や思考で世界を分節化、つまり区切りをつけて認識しています。それをカシーナでは、まるでアメーバのようにすべてが繋がった世界に区切りをつけない状態にします。

それにより、心の在り方や嗜好性も徐々に変化し、スピリチュアルな能力も高まります。疲れた時には、究極のリラックサ状態へいざなってくれます。

日常とは違う、インナービジョンの世界を楽しく体験できるカシーナは、心を浄化し、平穩へと導いてくれます。



カシーナを 使用した人たちの声

戦争で経験した恐怖や苦悩から 解放された

(60代/男性)

アメリカの海兵隊だった私は、ベトナム戦争の経験で、PTSDに陥っていました。それを癒してくれたのは、カシーナでした。これは本当に人生を変えてくれる装置で、海兵隊の基地やトラウマに悩む多くの人に使ってもらいたいと思います。

私はカシーナを使って、苦痛や恐怖から逃れる旅ができました。現実から私を連れ出し、戦争で人格を破壊される前の自分を取り戻すことができたのです。お気に入りには「オーディオ・ストロボ」の「Audio Illusions」で、私自身にとってはこのプログラムは現実を脱出し、別の次元へ進める装置だと思っています。



カシーナで得られるビジョンは人によって異なります。この写真は、あくまで、見えるビジョンのイメージです。

見ている景色や 世界観まで変わった

(40代/女性)

ここ数年、瞑想にはまっていて、いろんな体験がしたいと購入しました。始めの頃は、特に何もなく、小さなLEDの光に圧倒されたくらいで拍子抜けでした。その後も何度か使っていると、自分の視覚に無意識のガードがあったことを理解できました。

見ないけど見るというパラドックスを理解した瞬間、ビジョンがとてもクリアになって、現実で見ている世界に深みを感じられるようになりました。まるで小さな魔法の箱のようで、今では毎日愛用しています。

本当のリラックスを感じて 新しい自分になれる

(20代/男性)

私は「Mind Art」の「Dreamy Sax」がとても好きで、これを聴いていると、とても心が安らいでいくのを実感しています。音楽もお気に入り、時々そのまま寝てしまうこともあります。

逆に、「HACHIMAN」に入っている「MEGA」バージョンは、目の前に様々な映像が浮かび上がり、最初は鳥肌が立ちました。カシーナはいろんなプログラムがあるので、疲れが溜まっている時や、嫌なことがあった時のリフレッシュとしても最適です。何かに集中したい時や会社に行く前に聴くことで、いつも新しい自分に生まれ変わることができます。

効果的な使い方と使用者たちの声

使い方は簡単で、効果は様々です。一例をご紹介します。

《使い方》

- 専用ゴーグルとイヤホンを装着し、好きなプログラムを選びます。耳には優しいサウンドが流れ、閉じた瞼の裏に、ピュアで宝石のような、豊かな色彩に満ちた世界が広がります。慣れると、その向こう側に様々なビジョンが現われます。
- BGMのないバルス音だけのプログラムは、外部音源とミックスして楽しめます。語学CDをミックスすれば、記憶の定着を飛躍的に高めることができます。

《得られる効果》

- 数十年の瞑想修行によってしか得られない、深い変性意識状態やビジュアライゼーションの感覚を、15分で体験することが可能です。
- 瞑想やヨガを行っている人が補助ツールとして使えば、一層、深い意識状態に到達できます。
- イメージング能力を高めます。
- 深層意識に湧き上がる、ひらめきをキャッチできるようにします。
- 語学CDや学習CDと併用すれば、記憶の固定を飛躍的に高めます。
- テストや試合の前に、集中力を高めるプログラムもあります。
- スピリチュアルな感性や能力を、自然に高めます。
- アメリカでは不眠症に悩む人々に好評です。睡眠時に優勢になる、δ波に誘導する専用プログラムもあるため、いやでも深い睡眠に誘導されます。

● 前世や来世、パラレルワールドを体験することも可能です。ただし、そこにいくためには、プログラムの選択とちょっとしたコツが大切です。

別の世界と繋がるには、光の渦や輝く雲、七色の虹の向こう側に、何らかのビジョンがフワ〜と浮きあがる瞬間を捉えるのがポイントです。何度も体験するうちに、それを自由にコントロールできるようになります。私が「Vapor-chill」、「River and Forest」、「Astral Trip」などのプログラムを聞くと5分くらいで、別の世界に繋がることができます。

- リラックスしたい人には「Mind and Forest」、変性意識を体験したい人は「Vapor-chill」トリップ体験をしたい人は「Vapor-3」から移植の「Drug Vision」などが個人的にはお勧めです。「Vapor-03」は、ホワイトノイズの効果と相まって、強力にトランス状態に誘導するので、私は大体3分ほどで効果を実感できます。
- 愛用者からは、「不眠が治った」「本来のリラックスを実感できた」という声が多く寄せられています。鍼灸院で設置されているところもあります。ヒーリングサロンなどで活用すると効果的です。
- ストレスに押し潰されそうな時、カシーナはマイナス・エネルギーを吹き飛ばし、優しく癒やしてくれます。
- 「妖精が見えるようになった」という人もいます。それが宇宙人であっても、「コンタクトしたい」と強く願っているなら、彼らと交信できるツールにさえなるでしょう。

武田さんが
明かす



色と脳波の探究から生まれたブレインマシンの前史

古代から探究されてきた光や色が脳に与える影響

光の明滅が脳に影響を与え、残像効果によるビジョンを発生させることは大昔から知られていました。焚き火の周りで踊る人の輪は、光の明滅を発生させ、ドラムの音とあいまって人々を変性意識状態へと誘導しました。



●ボヘミアの生理学者ヤン・エヴァンゲリスタ・プルキニエ(1787- 1869)は、ガス灯に手をかざして高速で振り、光の明滅で生成されるビジョンを詳しく観察しました。



プルキニエ現象を説いた、ヤン・エヴァンゲリスタ・プルキニエ。

●1924年には、ドイツの神経科学者ハンス・ベルガーが人類史上初めて脳波を科学的に計測して、α波を発見しました。

●アメリカの神経生理学者、ウィリアム・グレー・ウォルターは、脳波はストロボ光の点滅に同調して、視覚部位を超えて大脳皮質全体におよぶ幻覚を発生させることを発見し、1953年に、『脳は生きている』という本で発表しました。



神経生理学者のウィリアム・グレー・ウォルター。

まどろみの中で見えた超自然的な不思議な映像

その5年後の1958年、ブレインマシンの原型が生まれました。開発したのは、イギリス生まれの画家でフォーマーのプライオン・ガイシンです。

彼は南フランスをバス旅行中、車中でまどろんでいました。すると、目を閉じているのに、縞模様のような光や不思議な映像が見えたんです。ガイシンはその時

の光景を、「超自然的な色彩の激しい光の圧倒的な氾濫がまぶたの裏に展開した。多次元的なカレイドスコープの旋回」と表現しています。

その風景に驚いて目を開けると、バスは西日に向かって林の中を走っていたそうです。

彼はこのビジョン体験を、当時から交流していた作家のウィリアム・バロウズに話しました。その後、彼らは、ウォルターの『脳は生きている』を読み、ガイシンの知人、数学者イアン・サマービルの協力で、パリのバロウズのアパート、通称「ビート・ホテル」で「ドリームマシン」という装置を開発しました。



ドリームマシンを実験するプライオン・ガイシン(左)とウィリアム・バロウズ(右)。



名だたるアーティストを魅了したドリームマシン

この時代はコンピュータなどなく、蓄音機のターンテーブルの中央に光源を設置し、その上に窓を複雑に切り抜いた筒で覆い、その装置の前に座って、瞑目するというものでした。

パリのバロウズのアパートを訪れた、作家のアレン・ギンズバーグは、この装置を体験し、「視野に宗教的でマンダラ的な光が広がった。ケミカル・ドラッグの力を借りずに、宝石のような聖書的な光景を見ることができた」と報告しています。

ネオシャーマニズムを愛したティモシー・リアリーとの出会い

瞑想や変性意識の探求は、アメリカのドラッグカルチャーと、密接な関係があります。ティモシー・リアリーは「LSDの教祖」と呼ばれた人で、ハーバード大学でLSDを研究して追放され、CIAに追われながら、世界中を放浪していました。

その彼が、晩年の1993年に来日した時、私と一緒にブレインマシン「メガブレイン」の公開セッション体験会を行いました。実は、彼はLSDの研究に先行して、ガイシンのドリームマシンに関心を持っていたのも不思議な縁です。

ティモシー・リアリーはネオシャーマニズムを愛していました。意識の拡大、感覚の拡大が一貫した彼のテーマでした。

Information



武田崇元さんが「カシーナ」の魅力をご紹介します。
以下のURLかQRコードからご覧になれます。

<https://anemone.net/?mode=grp&gid=1638198>